

《中学校 英語科》

主体的に内容をとらえ、自分の考えを伝えようとする態度の育成 ～目的をもって読み、情報を整理する学習過程を通して～

那覇市立上山中学校教諭 上原 亮輔

〈研究の概要〉

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現できるような「読むこと」の授業をすすめるにはどうすればいいか。

本研究では二つの方策を立て、その有効性を検証した。第一に、生徒の意欲を高めるために、帯活動において英文を読む場面を設定し、生徒が読みたくなるような題材を設定することである。身近で関心のある話題を継続的に読ませることで、生徒は少しずつ学びの手応えを実感することができた。第二に、教科書本文の「必要な情報」「概要」「要点」をつかむために、読む目的に応じた手がかりをもとに情報を整理させることである。主体的な読み手としてじかに英文と向き合うことで、生徒は自ら気づき考え、情報を拾い、自分の考えを伝えることができた。

このことから、目的をもって読み、情報を整理する学習過程を通して、主体的に内容をとらえ、自分の考えを伝えようとする態度を育成することができたと考える。

〈研究のイメージ〉



目 次

I	テーマ設定理由	61
II	研究目標	61
III	研究仮説	61
1	基本仮説	
2	作業仮説 (1) (2)	
IV	研究構想図	62
V	研究内容	62
1	「目的をもって読み，情報を整理する学習過程」について	
2	指導の工夫について	
(1)	帯活動の題材設定	
(2)	読む目的の明確化	
(3)	情報を整理する活動	
VI	授業実践(第2学年)	65
1	単元の概要	
2	単元の指導と評価の計画(全4時間)	
3	本時の学習指導について	
(1)	本時の目標	
(2)	授業仮説	
(3)	本時の展開(第4時)	
VII	結果と考察	67
1	作業仮説(1)の検証	【結果】【考察】
2	作業仮説(2)の検証	【結果】【考察】
VIII	成果と課題	70
1	成果	
2	課題	

《主な参考文献》

主体的に内容をとらえ，自分の考えを伝えようとする態度の育成 ～目的をもって読み，情報を整理する学習過程を通して～

那覇市立上山中学校教諭 上原 亮輔

I テーマ設定理由

中学校学習指導要領は，外国語科において，コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目標としている。その達成のために，実際に英語を用いた言語活動の中で思考・判断・表現することをくり返すという学習過程の質を高めていくことが必要である。

本校の生徒に目を向けてみると，「読むこと」の領域，とくに教科書本文を扱う言語活動において，長い英文を読むことに面倒くささや抵抗を感じたり，わからない単語があるとあきらめてしまったり，発問に対して反応が弱かったりする姿が見られ，外国語科が目標とする「必要な情報」「概要」「要点」をとらえるための指導は思うようにすすめられていない。この原因は，文法の説明，読みの反復練習，訳読指導などに偏り，内容に対する関心や読もうという意欲を十分に喚起できていないという点にある。

この現状を改善するために，次の二つの方策が必要だと考えた。第一に，生徒の意欲を高めるために，帯活動において英文を読む場面を設定し，生徒が読みたくなるような題材を用いることである。身近で関心のある話題を，平易で語数の少ない英文で継続的に読ませることで，生徒は少しずつ学びの手応えを実感し，教科書本文への学びに向かうことができるだろう。第二に，教科書本文の「必要な情報」「概要」「要点」をつかむために，言語活動において，読む目的に応じた手がかりをもとに情報を整理させることである。主体的な読み手として，じかに英文に向き合うことで，生徒は自ら気づき考え，情報を整理し，それをもとに自分の考えを伝えることができるだろう。

そこで本研究では，「読むこと」の学習過程において，関心や意欲を高めるための帯活動と，読む目的に応じた手がかりをもとに「必要な情報」「概要」「要点」をつかむ言語活動を行うことで，主体的に内容をとらえ，自分の考えを伝えようとする態度を育成できると考え，本テーマを設定した。

II 研究目標

主体的に内容をとらえ，自分の考えを伝えようとする態度を育成するために，目的をもって読み，情報を整理する学習過程について研究し，その有効性を検証する。

III 研究仮説

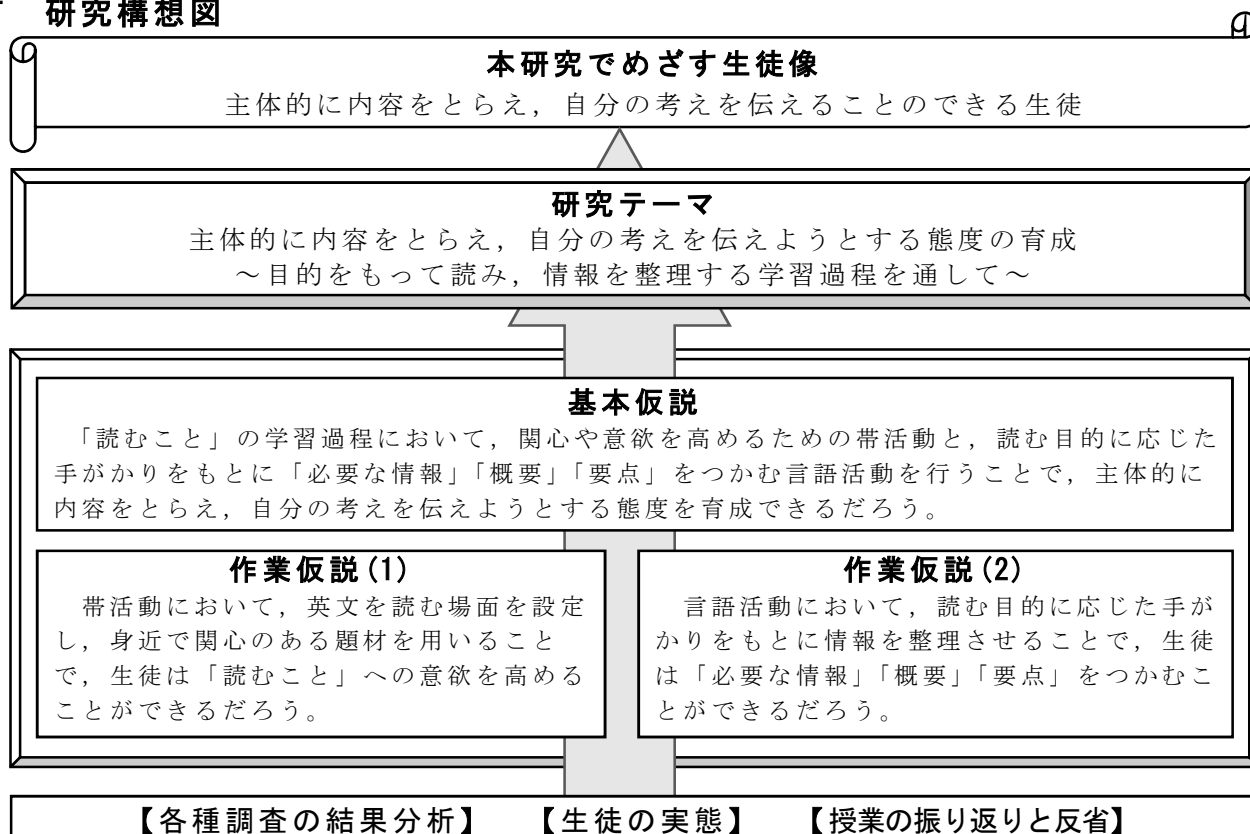
1 基本仮説

「読むこと」の学習過程において，関心や意欲を高めるための帯活動と，読む目的に応じた手がかりをもとに「必要な情報」「概要」「要点」をつかむ言語活動を行うことで，主体的に内容をとらえ，自分の考えを伝えようとする態度を育成できるだろう。

2 作業仮説

- (1) 帯活動において，英文を読む場面を設定し，身近で関心のある題材を用いることで，生徒は「読むこと」への意欲を高めることができるだろう。
- (2) 言語活動において，読む目的に応じた手がかりをもとに情報を整理させることで，生徒は「必要な情報」「概要」「要点」をつかむことができるだろう。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 「目的をもって読み，情報を整理する学習過程」について

外国語編は，第2章第1節(2)において，学習過程について次のように指摘する。

外国語教育における学習過程としては，①設定されたコミュニケーションの目的や場面，状況を把握する，②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し，コミュニケーションの見通しを立てる，③目的達成のため，具体的なコミュニケーションを行う，④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う，といった流れの中で，(中略，筆者)「思考力，判断力，表現力等」を高めていくことが大切になる。

学習過程を改善するための大きな方向性が示されていると言える。

また，今回の改訂で，指導内容を示す「2 内容」の構成が変わった点に着目した。「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等」の二つの構成となり，「思考力，判断力，表現力等」の項目に「(2)情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項」が新たに加えられた。

この事項は「思考力、判断力、表現力等」の具体的な内容を明示しており、学習過程のあり方を検討する上で重要だと考える。

「(2)情報を整理しながら～」(第2章第2節(2))には次のような文言がつづく。

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(下線、筆者)

つまり下線部は、上述の第2章第1節(2)において示された大きな方向性を土台として、今回の改訂で明示された「思考力、判断力、表現力等」を身に付けさせるための、より具体的なコミュニケーションのあり方を示していると言える。

本研究では、下線部に示された目的・場面・状況の設定や情報の整理などを、教科書本文を扱う「読むこと」の言語活動に具体的な手立てとして落とし込み、単元を通して、生徒が、自ら気づき考える喜びを味わいながら英文を読んだり情報を整理したりできる学習過程をつくることを目指す。解説しながら全体の理解につなげる指導ではなく、生徒の気づきを引き出しながら指導していきたい。

2 指導の工夫について

(1) 帯活動の題材設定

話す力の向上を目指す「Small Talk」を参考に、読む力の向上を目指す「Small Reading」を考案し、学習過程に位置付ける。そのねらいは「読むこと」への意欲を喚起することである。平易で語数の少ない英文で、生徒が読みたくなるような題材を設定し、生徒が「自分でも読めそう」「読んでみたい」と感じられるようにしたい。

とくに読解に苦手意識をもつ生徒に対しては、外国語編が示す「生徒自身が課題意識をもって情報を得たいと考えるような」題材、おもには、身近な学校生活や家庭生活など自分事として読めるような題材を取り入れいく必要がある。

このことについて田中(2017)は、『『なんだか面白そう』と生徒の心が動くことで、教材に向き合うきっかけができるはずです。また、教材の主題にあたるキーワードが扱われていることから、授業が進むにつれて、この活動の意義と授業の関係に気づくはずです』と指摘する。

本研究では、帯活動の題材として、総合的な学習の時間に本校が実施した軽石撤去ボランティアの新聞記事やテレビ報道等をおもに扱うこととする。その英文をつくるにあたっては、教科書本文の主題「国と国の友好関係を築くために大事なこと」のキーワードとなる語(friendshipやhelp each otherなど)を使用する。

また、このような題材を用いた帯活動を毎時設定し、まとまった分量の英文に慣れ親しんだり既習表現にくり返し触れたりして、読む力の基礎を培いたい。

(2) 読む目的の明確化

外国語編は、第2章第2節「1目標」「(2)読むこと」において次のように指摘する。

読み手である生徒が主体となり、どんな情報を得るために読むのかを意識するなど、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるようにすることが考えられる。

主体的な読み手となるために、「何のために読むのか」という目的意識をもつことが重要であることを示している。このことは、換言すると、教師側も「(2)情報を整理しながら～」(第2章第2節(2))が示した「思考力、判断力、表現力等」の具体的な内容をていねいに理解し、外国語編が示す目標に則した「読む目的」を、生徒にわかりやすく伝えることが重要だということである。

そこで、外国語編が示す「読むこと」の目標に則して、「令和元年度授業アイディア例(中学校)」(国立教育政策研究所)を参考にしながら、読む目的と、それを生徒に明

確に示すための発問例を下のように整理した（表１）。

表１ 「読む目的」と発問例（外国語編および「授業アイデア例」をもとに筆者作成）

「読むこと」の目標に則した「読む目的」	読む目的を示すための発問例
「必要な情報」→ 知りたい情報をとらえる	「自分が所属する委員会の活動場所はどこ？」 「ALTが旅行中に体験したことは何だろう」など
「概要」 → 大まかな内容をとらえる	「どのようなことが書かれているかつかもう」 「説明文の話題は何だろう」 など
「要点」 → 大切なところをとらえる	「書き手が一番伝えたいことは何だろう」 「もっとも大切だと思う文を選ぼう」 「この文章にタイトルをつけよう」 など

本研究では、生徒が何のために読むのかを意識できるよう、表１に整理した「読む目的」を発問したり板書したりして明確に示すことを目指す。一語一語や一文一文の意味など特定の部分にとらわれてしまったり、ただ漫然と英文を読みすすめたりすることなく、生徒が主体的な読み手として、課題意識をもって文章全体に目を通すことのできる場面をつくっていききたい。

（３）情報を整理する活動

上述の「（２）情報を整理しながら～」（第２章第２節（２））は、情報を整理する目的について、整理・吟味して思考を深め、自らの考えを形成したり表現したりするためだと指摘する。つまり、話したり書いたりして活用するためにどの情報を取り上げるのかを生徒自らが取捨選択することが重要であり、同時に、その取り上げた情報を活用する場面を、読後に位置付ける学習過程が求められると考える。

外国語編「２ 内容」「（３）言語活動及び言語の働きに関する事項」より、技能統合型の言語活動の例を下記のように整理した（表２）。

表２ 「読むこと」の言語活動の例（外国語編「２ 内容」より一部抜粋して筆者作成）

言語活動	言語活動の例
「概要」	・諸外国の中学校生活を紹介している短い文章を読ませ、文章の流れを理解するためのキーワードを拾わせ、<u>全体としての内容を数文の英語でまとめさせる。</u> ・友人や教師が休日を過ごした中で感じたことなどのエッセイを読ませ、出来事を時系列に沿って整理させ、<u>どんな内容を伝えようとしているのかを絵や簡単な英語で表現する。</u>
「要点」	・地球温暖化などの環境問題に関する説明文を読ませ、イラストや図表なども参考にしながら筆者の主張を数文でまとめた上で、<u>自分ができることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったり、さらにそれを簡潔に書いて表現する活動へと発展させる。</u>

下線部は、取り上げた情報を活用するための読後の活動を示していると言える。

これに関連して池野（２０１０）は、ねらいに応じた適切な活動として、「Peer Questioning（生徒同士で質問）」、「Personalization Questions（最も印象に残った文を選ぶ）」、「Table completion（アウトラインのフローチャートを完成させる）」などの実践例を挙げている。

本研究では、「Table completion」に類する「タイムライン」という手法を用いて情報を整理する活動を行う。この手法は、時間順にできごとを記述することが多い説明文というテキストタイプの内容をつかむことに向いており、広く活用されている。必要に応じてイラストを書くことや、英文から読み取った内容を視覚情報へ転換することができる。また、ペアで発話しながら内容を共有する読後の活動において、タイムラインのメモやイラストをもとに発話することもできる。

VI 授業実践（第2学年）

1 単元の概要

単元名 (内容のまとめ)	Reading 2 Friendship beyond Time and Borders (「読むこと」ウ)
単元の目標	国際協力に関する自分の考えを伝えるために、読む目的に応じた手がかりに着目して、英文の「必要な情報」「概要」「要点」をとらえることができる。
働かせる 見方・考え方	読む目的に応じた手がかりに着目して、情報を整理し、考えを形成する。

2 単元の指導と評価の計画（全4時間）

時間	ねらい（■） 主な学習活動（丸数字）		評価方法		
	帯活動	言語活動	知	思	態
1	■単元の目標を理解する。				
	■「必要な情報」をとらえる。 題材：上山中学生徒会が募集している軽石撤去ボランティアに参加しよう！ 発問「何時から？」 「持参物は？」 「何がもらえる？」	■平易な説明文の「概要」「要点」をとらえる。 ・読む目的①「大まかな内容をつかもう（概要）」 ・読む目的②「見出しをつけよう（要点）」 工夫点：数字や国名、文章の構成などに着目して内容をとらえている発話を多く拾い、板書したり全体で取り上げたりして、読み取る手がかりに気づかせる。			
	■「必要な情報」をとらえる。 題材：横田先生から上原先生へ急なメール。すぐに返信しよう！ 発問「何があった？」 「上原先生になったつもりで返信しよう」	■教科書（P.84）の「概要」「必要な情報」をとらえる。 ・読む目的①「大まかな内容をつかもう（概要）」 ・読む目的②「ペアに内容を伝えるために、大切な情報をメモしよう（必要な情報）」 工夫点：前時でおさえた読み取りの手がかりをもとに、文章全体に目を通すようながす。机間巡視で生徒の発話（気づき）を引き出し、全体で共有する。			
	■「必要な情報」をとらえる。 題材：誕生日を迎えた我如古兄妹。二人の昨日の予定を知ろう！ 発問「8時に何をした？」 「ケーキを食べたのは何時頃だろうか？」	■教科書（P.85）の「概要」「必要な情報」をとらえる。 ・読む目的①「大まかな内容をつかもう（概要）」 ・読む目的②「ペアに内容を伝えるために、大切な情報をメモしよう（必要な情報）」 工夫点：各段落の最初の一行や時間軸を意識しながら情報を整理させる。内容を伝え合うためのペア共有の場面では、英語を使用するようながす。			
本時 4	■「必要な情報」をとらえる。 題材：ニュースに出た軽石撤去ボランティアの二人のインタビューを読もう！ 発問「二人はなぜボランティアに参加した？」 「自分だったらどう答える？」 (ペアでやり取り)	■教科書（P.86）の「概要」「必要な情報」「要点」をとらえる。 ・読む目的①「大まかな内容をつかもう（概要）」 ・読む目的②「ペアに内容を伝えるために、大切な情報をメモしよう（必要な情報）」 ・読む目的③「見出しをつけよう（要点）」 工夫点：前時までにおさえた方策を意識させる。ペア共有の場面では英語使用をうながす。書いてまとめる前にやり取りの場面を設け、考えを整理させる。		○	○
	後日、ペーパーテスト			○	○

3 本時の学習指導について

(1) 本時の目標

読む目的に応じた手がかりに着目して、「概要」「必要な情報」「要点」をとらえる。

(2) 授業仮説

言語活動において、読む目的に応じた手がかりをもとに情報を整理させることで、生徒は教科書本文の「必要な情報」「概要」「要点」をとらえることができるだろう。

(3) 本時の展開（第4時）

	学習活動	教師の発問（○） 生徒の活動（・） 評価基準（□）
導入 15分	1 帯活動（Small Reading） (1) 黙読 ↓ ペアで共有 (2) 黙読 ↓ ペアで発話 (3) 全体共有  興味を引く話題を平易に英文化	○ Why did she and he clean the beach? ・二人がなぜ清掃活動に参加したのか、インタビューの大まかな内容をつかむ。 ○ What will you say if you have an interview? ・自分の意見を述べるために、必要な表現を考えながらもう一度読む。 ○ Please share your idea. ・「自分ならどう答えるか」について発言する。また他の生徒の発言を聞く。
展開 30分	2 言語活動（読むこと） (1) 黙読 ↓ 情報整理 (2) 黙読 ↓ 情報整理 (3) 全体共有  拾った情報を互いに共有する場面 つかんだ内容を伝え合う場面	○ What is the outline of this passage? （目的①「大まかな内容をつかもう」） ・前時までに学習した手がかりをもとに、文章全体を読む。 ・ペアで情報交換をする。 ○ What is the important information? （目的②「ペアに伝えるために、大切な情報をメモしながら読もう」） ・タイムラインに沿って大切な情報をメモしたり、イメージした内容をイラストにまとめたりする。 ・ペアと内容について情報交換をする。 思判表 「概要」や「必要な情報」をとらえて、大切な情報を書いている。
	3 言語活動（書くこと） (1) やり取り ↓ 作文 (2) 全体共有  考えを発話してやり取りする場面	○ What is the best title of this passage? （目的③「文章にタイトルをつけるために読もう」） ・2分ほど黙読し、「ふさわしいタイトル」についてペアでやり取りする。 ・やり取りをもとに自分の考えを書く。 思判表 「要点」をとらえて、内容にふさわしいタイトルを書いている。
終末 5分	4 学習のまとめ まとめ：わかる単語、数字、国名、または文章構成などに着目したり、友だちに伝えたい情報を整理したりしながら読むことで、内容をつかむことができる。	

VII 結果と考察

1 作業仮説(1)の検証

帯活動において、英文を読む場面を設定し、身近で関心のある題材を用いることで、生徒は「読むこと」への意欲を高めることができるだろう。

【結果】

生徒は、楽しそうに英文を読んだり、ペアとの情報交換で盛り上がったり、「明日は誰が登場しますか」と聞いてきたりして、題材に引きつけられている様子がうかがえた。

また、身近で関心のある題材を用いることで、理解をうながすための予備知識を与えずにまずは自分の力で黙読させるという、読む行為を起点とした授業展開をスムーズにつくりだすことができた。その結果、思考したり判断したりして自力で読むという経験を、教科書本文だと読むことをあきらめてしまいがちな生徒にも与えることができた。

生徒の感想(表3)から、英文に苦手意識を抱えながらも、内容に関心を寄せて読んでいたことがわかった。

表3 生徒の感想(振り返りシートより)

生徒A：話が面白いから、帯活動の英文を読むのは好きだった。

生徒B：前よりはできるようになった気がする。身近なことで楽しかったからまたしてほしい。

生徒C：最初に読むのも全くできなかったけど、回数を重ねるごとにできたので良かったです。

生徒D：帯活動ではどんな話か楽しんで読める。

また生徒アンケートの結果(図1)から、「長い文章を読むことは好きか」に対する肯定的な回答の割合が、事後で38.2%まで増えたことがわかった。

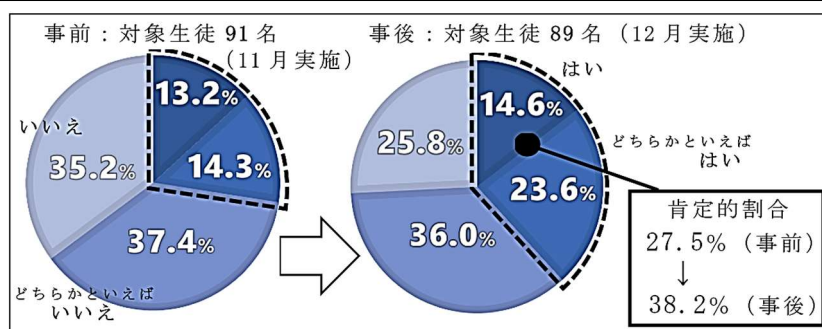


図1 生徒アンケート「長い文章を読むことは好きか」事前と事後の比較

【考察】

授業で扱う題材について外国語編は「積極的参加を促せるもの」が大切だと指摘し、そのための工夫として他教科での学習や学校行事との関連付けをあげている。

今回、その関連付けを意識的に取り入れたことで、生徒たちの態度が大きく変わったと感じた。生活に密着した共通の体験を英語で読みすすめるにあたり、生徒は、教師に助けを求めることなく、読みの途中で笑ったり「あはあ」とうなずいたりして読むことを楽しんでいるように見えた。このことは、「自分でも読めそう」「読んでみたい」という思いが、「自分の力で読み通そう」という意欲につながり、その過程をくり返す中で、「だんだん読めるようになってきた」という手応え、さらには、教科書本文も「まずは挑戦しよう」という前向きな姿勢につながったことを示している。

また、日常生活の何気ない場面を扱った英文を自分事に引きつけて読ませることで、まとまった分量の英文に慣れ親しんだり既習表現にくり返し触れたりする経験を、生徒に無理なく与えることができ、読む力の基礎づくりにもつながったと感じた。

以上のことから、身近で関心のある題材を用いることは有効であったと考える。

2 作業仮説(2)の検証

言語活動において、読む目的に応じた手がかりをもとに情報を整理させることで、生徒は「必要な情報」「概要」「要点」をつかむことができるだろう。

【結果】

生徒は、「概要」をつかむために、各段落の最初の一行や年号といった手がかりに着目したり、「要点」をつかむために、くり返し使用される語句や最終段落の結論部といった手がかりに着目したりすることができるようになった。最初は意味の取れない単語から動けなくなってしまう生徒が多かったが、ペアや全体で互いの気づきを共有する過程を経て、少しずつ文章全体に目を通すことができるようになった。

図2は後日テストの内容と結果である。令和元年度全国学力・学習状況調査の設問(大問8)をもとに作成した。

設問と正答率

問1「大まかな内容を英語でまとめよう」

→ 正答率 53% (43名)

問2「英文に見出しをつけよう」

→ 正答率 56% (45名)

There are a lot of hungry people in the world. The world Food Program gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project, but people waste a lot of food every year in Japan. We waste food at home, at restaurants, at convenience stores, at supermarkets, and at school.

We have to stop wasting food now to save the hungry people.



(注) the World Food Program : 世界食糧計画 (国際連合の事業)

project : 事業 waste : ～をムダにする

(1) 採点の視点(問1の場合)

(思考・判断・表現) 大まかな内容をとらえ、英語で表現できる。

(視点A) 文章構成、数字、固有名詞などに着目して表現している。

(視点B) 大まかな内容として理解できる英語で表現している。

(2) 正答の実際

- ・ This essay is talking about how many people are hungry and how much food are wasted in Japan. → 飢餓に瀕する人の数などに着目している。
- ・ There are a lot of hungry people in the world. We have to stop wasting food now to save the hungry people. → 二つの段落の最初の一行に着目している。
- ・ We waste food but the World Food Program gives food to many people. We have to stop wasting food. → 世界食糧計画と日本の比較などに着目している。

図2 後日テストの内容(右上)と結果(下)

また生徒アンケートの結果(図3)から、単元を通して指導した④(「必要な情報」)、⑤(「概要」「要点」)の項目で、「できる」と感じる生徒の割合が事後で増えたことがわかった。

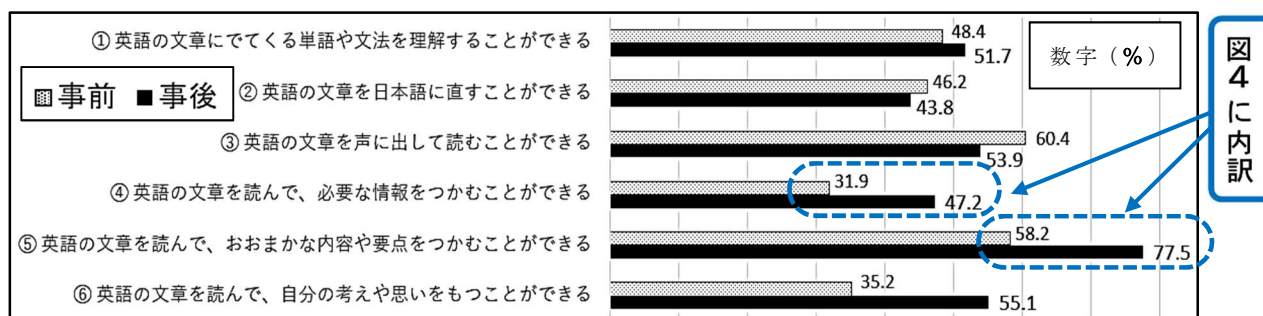


図3 生徒アンケート「『読むこと』の学習でできると思うこと」事前と事後の比較

また図3の設問④⑤で「できる」と回答した生徒の人数の内訳に注目した(図4)。

定期テストの平均点で分類してみると、成績上位に該当するa・bグループに比べ、中下位に該当するc・d・eグループの方が、事後で「できる」と回答した生徒数の増え幅が大きいことがわかった。

図5は生徒のワークシートである。「概要」をつかむために段落の最初の一行に着目したり、数字をもとに詳細な事実をとらえたりしている。またペアに伝えやすいようにキーワードとなる語句とともにイラストを描いたり、「要点」をつかむために最終段落の結論部に着目したりしている。

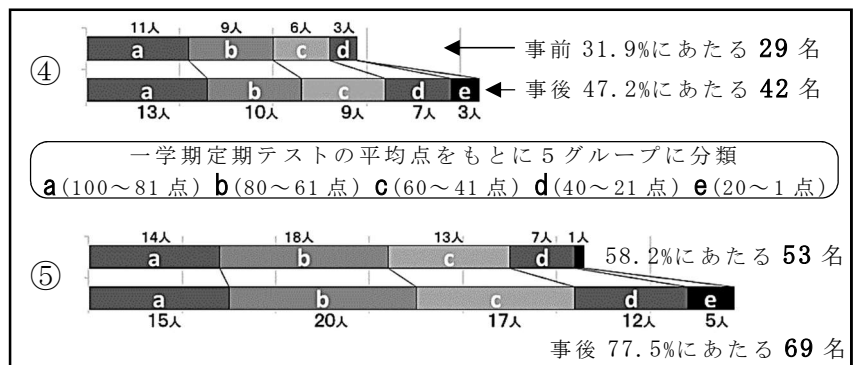


図4 前頁の図3における設問④⑤の人数の内訳

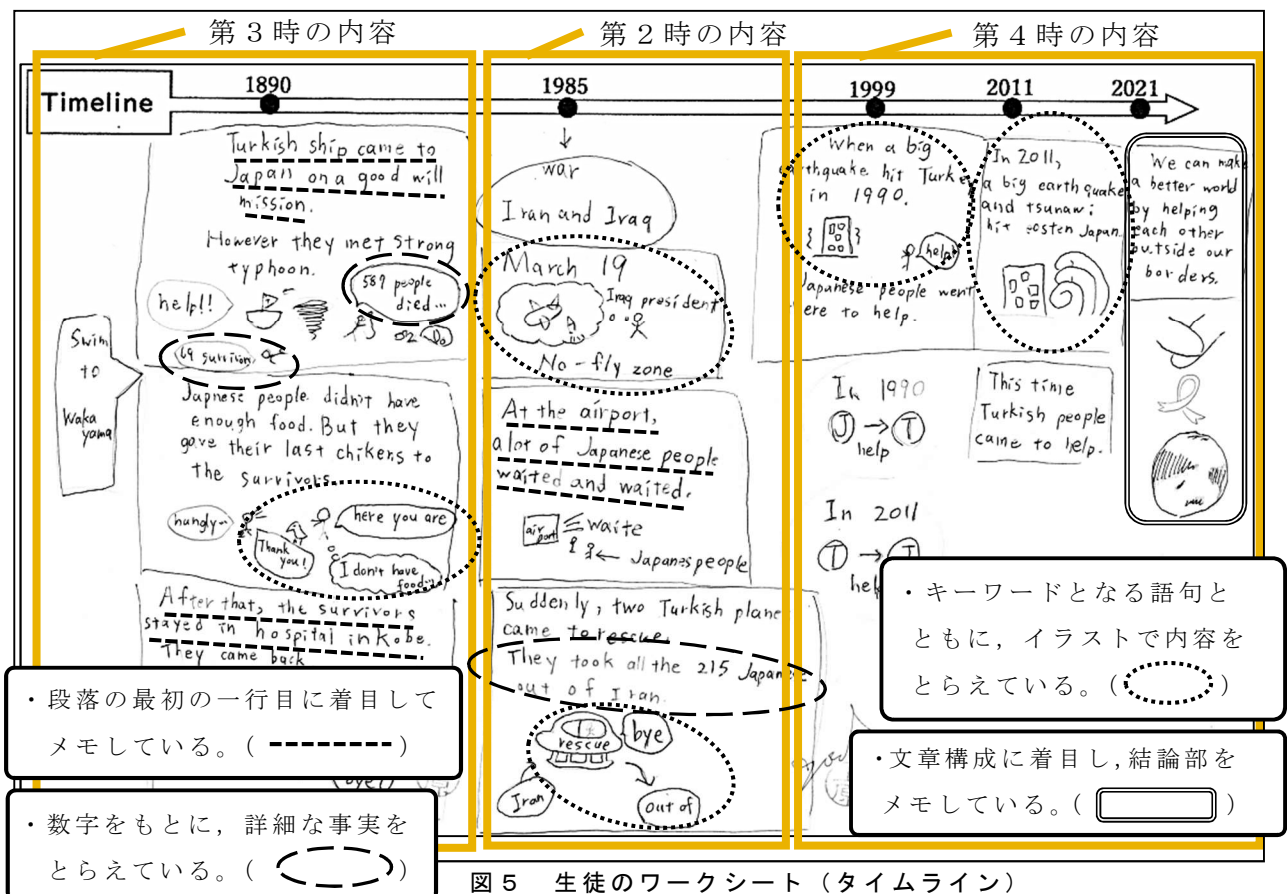


図5 生徒のワークシート(タイムライン)

【考察】

図3・4・5が示す結果は、以前までの、文構造についての解説を聞いてから読みすすめる受動的な態度が、読む目的に応じた手がかりをもとに、思考したり判断したりして自力で読もうとする能動的な態度へと変わったことを示していると考えられる。

また、図2の後日テストで正答と判断できなかった解答の多くは「The World Food

Program gives food to about 90.000.000 people in 83 countries.」という一段落二文目を書いたものだった。とくに英語の苦手な d・e グループの生徒に多い解答で、数字に引っ張られたことが原因だと推測する。それでも、この設問に無解答者はいなかったことから、わかる単語と着目すべき手がかりをもとに思考したり判断したりして、なんとか内容をとらえようとする態度が、成績下位に該当する生徒にも育まれたと考える。

このことは図 4（生徒の内訳）にも表出している。これまでは「どうせ無理」と決めていた教科書本文の学習において、内容をとらえて自分なりの考えをもてるようになったという実感が、c・d・e グループの生徒の中にも広がったと言える。

とくに印象的だったのは、机間巡視の場面で生徒数名に「What happened in 1999?」と問いかけると、「A big earthquake hit Turkey.」と答え、「And?」とつづけると、「Japanese helped Turkey.」や「People helped each other.」といった答えを、英語でさらに返してきたことである。このことは、じかに英文と向き合い、「見方・考え方」を働かせながら情報を整理する中で、生徒は日本語を介することなく、読み取った情報や背景知識から英語で前後を推測したり、次の展開を予想したり、自分の考えを英語で発話したりするようになったことを示している。活動に取り組ませながら指導するという学習過程により、自分の力で教科書本文の理解に迫り、既習とその理解を結び付けて自分の考えを表現するという、主体的な読み手としての生徒の姿が表れたと感じた。

以上のことから、「必要な情報」「概要」「要点」をつかんで自らの考えを表現するために、読む目的に応じた手がかりをもとに情報を整理させることは有効であったと考える。

Ⅷ 成果と課題

1 成果

(1) 教科書の読解を通して生徒の思考力や感性を育む、という大きな目標に向かうために、「楽しく読めた」という小さな成功体験を積み重ねることの大切さを強く感じた。題材への興味・関心から意欲を喚起できたからこそ、「読むこと」に対する生徒の姿勢が変わり、学びの手応えを感じさせることにもつながったと考える。

(2) 試行錯誤しながら英文と向き合ったり、読後の表現活動に取り組んだりする過程で、生徒は、読む目的に応じた手がかりをもとに内容をつかむことができた。自力で読む場面を与え、読み取る手がかりは生徒の発話から拾い共有するという指導は、コミュニケーションを図る資質・能力の育成に欠かせないと感じた。

2 課題

生徒が自ら気づき考え表現する学習過程を、年間を通したすべての単元計画、もしくは他領域への指導に適応させ、その充実を図ること。

《主な参考文献》

『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語編』	文部科学省	日本文教出版	2018
『中学校 新学習指導要領の展開』	金子朝子 松浦信和 編	明治図書	2017
『英語教師のための発問テクニック』	田中武夫 田中知聡	大修館書店	2017
『英語で英語を読む授業』	卯城祐司	研究社	2011